

12. 高ビリルビン血症に対して OHP 治療が有効であった 1 症例

山田直樹 鈴江孝昭 中根 健
河合 浩 黒江幸四郎 渡邊晃祥
(愛知県厚生連渥美病院医療工学科)

症例は16歳少年で、1989年8月27日オートバイ事故にて救急入院。CTにて肝破裂との診断を得て、肝右葉切除術・胆管空腸吻合術を施行した。術後経過は良好で同年10月26日に退院した。同年12月までに2回発熱・白血球増多・肝機能悪化を認め、2週間程度の入院加療にて改善した。しかし、1990年3月に血中ビリルビン値が漸増し、4月21日にはT・Bが6.8となった。又、ICG試験による肝機能は正常だった。この症例に空気加圧3ATAのOHP治療を計21回施行したところT・Bが2.6にまで減少した。OHP治療が有効であった高ビリルビン血症について、文献的考察を加え報告する。

13. 当センターにおける高気圧酸素治療前・中・後の注意事項について

北沢幸夫 勝本淑寛 伊東範行
野口照義
(千葉県救急医療センター)

昭和55年4月に三次救急センターとして開設以来、平成2年6月で満10年2ヵ月の期間が過ぎ、第2種高気圧酸素治療装置、羽生田鉄工製、P-1000S型を用いて、高気圧酸素治療を行なっている。この期間の治療疾患の重症例においては、気管内挿管や気管切開・人工呼吸器・点滴を施行している症例も多い。このような患者の治療においては、一層留意する必要がある。高気圧酸素治療(HBO)の10年間の経験を重ね、当センターにおけるHBO前・中・後の注意事項をまとめ、安全且円滑にHBOがおこなわれる目的で看護婦の教育、職員の資質向上などに活用されているので報告する。